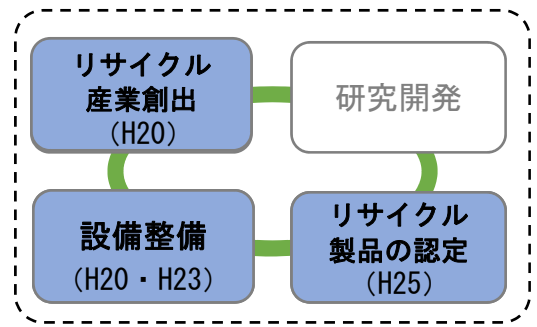


循環税事業の活用事例

■ (株) 苫小牧清掃社 (苫小牧市)

産業廃棄物の種類	混合廃棄物 (廃プラ等)
区分	再資源化・減量化
概要	混合廃棄物 (廃プラ等) を選別し、RPF とする設備の導入
製品名	RPF (固形化燃料)
業種	産業廃棄物処分量

<循環税事業の活用状況>



○実施経緯

- 建設現場等から排出される混合廃棄物は、従来、埋立処分が行われていたが、選別処理を行うことにより、RPF (固形化燃料) 原料の確保が可能になり、最終処分量の削減と資源リサイクルを促進するため、RPF 原料を確保する為の選別事業を進めることとした。

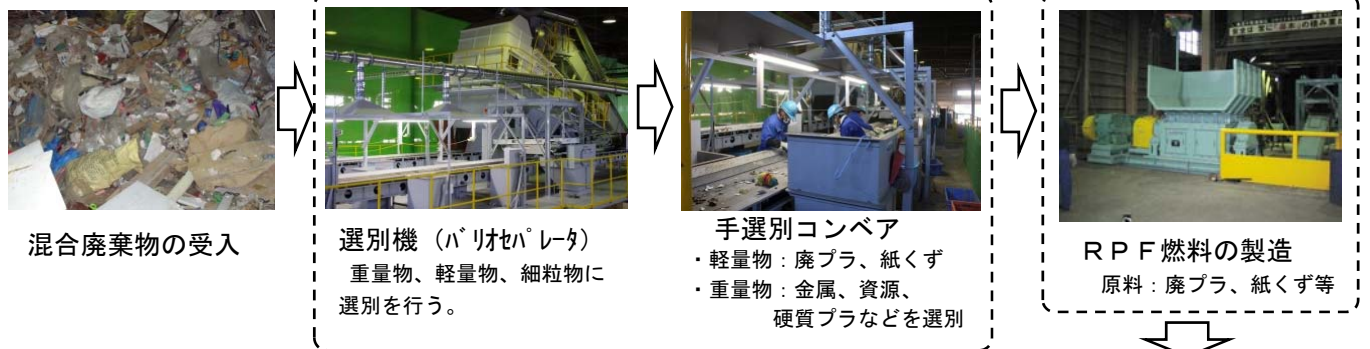
<課題>

- 混合廃棄物に含まれる低品位廃プラ (土砂の付着・含水率が高い等) を活用した RPF 製造は、予備試験では布類・雑紙等との適正混合比等を確認済みであったが、製品化に当たっては、既存設備での製造試験、販売先として想定される製紙工場の品質基準への適合確認が必要であった。

◇リサイクル産業創出事業の活用 (H20)

- 事業名: 低品位廃プラ類を用いた代替燃料の品質向上リサイクル事業化実証事業
- 成果: その他材料と混合する事により、RPF の品質を確保でき、製品化が可能と分かった。

○処理フロー



○導入効果

- 従来最終処分を行っていた混合廃棄物について、適切な選別を行い、RPF 原料としての再生利用を行うことが可能となった。
- 製造した RPF (固形燃料) は、石炭と同等の 5,000~7,000kcal の熱量を有しており、主に製紙工場の燃料として出荷されている。

◇北海道認定リサイクル製品の認定

- 製品名: RPF (固形化燃料)
- 認定日: H25 年 3 月 15 日

H27 年度 処理実績	産業廃棄物の種類	補助設備 受入量	事業効果 (t/年)			
			排出抑制量A	減量化量B	再生利用量C	合計(A+B+C)
	混合廃棄物	10,789	0	0	5,302	5,302

○今後の課題・展望

- 篩 (ふるい) や選別機の導入により、受け入れた混合廃棄物の再生利用率の更なる向上を図る。
- 製品 (RPF) の一層の販路拡大を図る。